

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 江南市立宮田小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校, 各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒483-8389
愛知県江南市後飛保町両家125番地

E-mail miyada-e@city-konan.ed.jp

Website <http://www.city-konan.ed.jp/miyada-e/>

幼児児童生徒数 男子 325 名 女子 303 名 合計 628 名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1, 2-1 に対応

本校は従来から学校ボランティア等地域の協力を得て、総合的な学習を展開してきた。平成26年度、ユネスコスクールの認定を受けたことを機に、従来の取組をESDの観点から見直し、改めて関連付けを行った。それをESDカレンダーの形で教育課程に編成し、指導に取り組んだ。目指すところは次の二点である。①自然体験を、環境問題を考えるきっかけとし、生涯にわたって環境について考える資質や能力を身に付ける。②地域の一員であるという自覚をもち、人と関わりながら働くことに喜びを見い出せるようにする。

【活動内容】「3年生・大根づくり」

活動は、一学期末から始まり、児童による草取り、職員の草取りと耕耘、ボランティアの方々による施肥・耕耘を行った。

2学期が始まると、青首大根の種の観察、JAの方から大根についてのお話を聞く会を行うなど、地域の特産品である大根への興味を高めた。その上で、ボランティアの方々の指導を受けながら9月上旬、大根の種まきを行った。その後、児童は水やりを行ったり、ボランティアの方々の指導の下、間引きなど

大根の世話をしたりした。これと平行して大根の成長の様子を観察し、詳細に記録していった。また、大根について調べる活動にも取り組んだ。

11月に入り収穫期が近付くと、大根収穫祭に向けての準備に取りかかった。職員はボランティアの方々と打ち合わせを進め、児童は実行委員会を組織し、収穫祭のプログラム立案や感謝状の作成などに取り組んだ。

11月下旬、大根の収穫を行い、ボランティアの方々の指導の下、大根の塩漬体験を行った。そして12月上旬、収穫祭を行った。ここでは大根の本付けを見学したり、おでんパーティーを行って育てた大根をボランティアの方々と共に味わう活動を行った。会の終りでは感謝状の贈呈と「ありがとうの花」の合唱を行い、地域のささえに対する感謝の思いを表現して活動の締めくくりとした。

【成果】

作物を育て、消費するまでの一連の体験によって、地産地消など環境について考えを深めることができた。また、学校ボランティアなど地域の方々と主に活動する中で、地域と自分とのつながりを実感したり、様々な人とのコミュニケーションをとる能力が着実に育ったりしていると感じられた。



大根の種まき



大根の収穫



大根の麴漬け見学



収穫祭（おでんパーティー）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">○ 大根の種類や調理方法などの情報を得られるウェブサイト○ 地域ボランティアやJAの方々のお話
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「つながり」を重視した教え方、学び方の指導

- 教材や教科等の内容を学校・地域社会・世界などの空間的つながりと時間的つながりの視点から考えさせる。
- 多様な立場・年代の人々と関わりながら体験できる場を設定する。
- 生活や実社会での実践につなげていく。
 - ・課題の解決に迫るときに重視する能力・態度を明確にする。
 - ・社会的課題を取り上げたり、体験活動を行ったりすることにより、学ぶ意欲を向上させる。
 - ・教科横断的な教育活動を総合的な学習の時間で効果的につなぎ合わせ、実践する。
 - ・外部の人材、場や機会等を有効に活用する。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- 教材として地元の特産品である大根を取り上げ、JAなど専門家の協力も得て、地域とのつながりを大切にしながら指導を進めている。
- 年度の初めに教師と学校ボランティアとの打ち合わせ会をもち、活動のねらいや進め方についての共通理解をはかり、形式的な活動にならないよう留意している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- 年2回、ESD担当を含むグループによる内部評価を行っている。評価項目は「成果と課題」「今後に向けて」「検討・依頼事項」
 - ・成果：地域とのかかわりを大切に活動が実践できている。
教科間のつながりを大切に活動が行われている。
 - ・課題：教育課程の変更に伴い、活動内容の見直しが必要になってくる。
学習の狙いをより明確にし、地域の方々とも共通認識をもって取り組んでいきたい。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

○発信方法

- ・ホームページや学年だより等で、活動の様子を紹介した。
- ・学習の成果を、授業参観などで児童が発表した。

○効果

- ・学校の教育活動に対する関心が深まり、ESDの意義について、より多く人々の理解を得ることができた。
- ・活動が広く紹介されたことで、ボランティアなど地域の協力が得やすくなった。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

- 現状では、外部団体との連携は具体化していない。ただし、学校運営協議会(平成31年度より)の発足に伴い、取り組みの一つとして取り上げる可能性はある。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

- 現在のところ予定していない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒，教員，カリキュラム・教授法，学校経営，地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- ・ 地域とのかかわりを基盤とした活動を進める中で，児童の中に，地域の一員としての意識が高まった。
- ・ 地域との連携がより計画的・継続的なものとなり，全校的に様々な分野で地域の協力が安定的に得られるようになった。
- ・ 教員の中に，地域の力を積極的に教育活動に取り入れていこうという意識が醸成された。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- 3年生 「大根を育てよう！」
- 1 宮小ボランティアさんとの打ち合わせ（7、8月）
 - 2 畑づくり
 - (1) 児童による畑の草取り（6、8月）
 - (2) 職員の草取り、耕耘、妨草ネットはり（8月）
 - 3 青首大根の種の観察（～9月6日）
 - 4 JAの方の大根についてのお話を聞く会（9月上旬）
 - 5 地域ゲストティーチャーとの種まき（9月上旬）
 - 6 大根調べ（観察と水やり）
 - 7 地域ゲストティーチャーと大根の間引き（9月下旬）
 - 8 大根調べ（大根料理を調べる）
 - 9 大根収穫祭に向けての準備
 - (1) 地域ゲストティーチャーとの打ち合わせ（11月上旬）
 - (2) 大根実行委員の活動（11月中旬）
 - 10 大根の漬け込み
 - (1) 大根の収穫（11月下旬）
 - (2) 地域ゲストティーチャーと大根の塩漬け体験（11月下旬）
 - 11 収穫祭（12月上旬）